

「教学と現代11」第4回

第3講：田中親男「カンボジア伝道の現在」

金子 昭

「蓮の会」木村エミ子氏との出会い

田中親男・慈林分教会長のカンボジアへの布教は、同国の恵まれない子どもたちを支援するNGO団体「蓮の会」代表・木村エミ子（本名トミ子）氏と折り紙が縁での出会いから。2000年末、JTB社員より「蓮の会が主催する日野皓正チャリティコンサートに是非来てほしい」と熱心な勧誘を受け参加、木村氏を紹介された。終演後の反省会で、木村氏は「音楽という教育がない貧しいカンボジアの恵まれない子どもたちに、世界一流の音楽を直接生で聴かせたい」と熱い思いを吐露した。

日野氏は快諾し、翌年4月現地でのコンサートに同行した。コンサート当日、会場の巨大なレストランに子どもを満載した十数台のトラックが四方から土埃を蒔き上げ押し寄せた。広場はトラックと子どもたちで埋め尽くされた。熱帯の炎暑の下、会場内は子どもたちでひしめきムンムンしていた。その真ん中で、髪を振り乱し、汗を吹き飛ばしながら大声を張り上げ、場内整理をしている木村氏がいた。この姿に、田中氏は大きな衝撃を受けた。

この日集まった子どもたちは4,700人。コンサートは大成功裡に終了。感激した田中氏は、両国の友好親善のシンボルとして桜の苗木を贈呈したいと進言した。そして2002年に桜植樹ツアーが実現。シアヌーク国王は桜植樹を大変喜ばれ、一行は王宮に招待されて国王夫妻に拝謁した。この年の10月、木村氏は5年間運営していたオリガミハウス・キンダーガーデンを国家に寄贈し、新たに7歳から11歳までの児童を対象とした全額無償の日本語学校オリガミスクールを設立し、田中氏は開校式でテープカットを行った。

着々と進むカンボジアの道

2003年3月、カンボジア王国立舞踏団を日本へ招聘し、東京・帝国ホテルで「アサラダンス」を上演、満席の大成功を博した。舞踏団の引率者プリンセス・ポッパデビ(国王の長女)文化芸術大臣他2名の王女を含め、急遽おぢばがえりをした。

それまではラオスで幼稚園を作り布教拠点をとを考え、ラオス駐日大使の子息に修養科に入学してもらおうなどしていた田中氏は、カンボジアとの親善活動が深まるにつれて、カンボジア布教に軸足を移すようになった。

2004年4月、木村トミ子氏他2名が天理教基礎講座を受講し、初席を運んだ。同年9月、田中氏は浅草大教会長と共にカンボジアでの布教拠点となる場所を視察に行くなど、布教伝道の道が開かれつつあった。12月末、副首相兼内務大臣に就任したプリンス・ノロドム・シリウッド殿下(シアヌーク国王の弟君)を表敬訪問。この時、殿下自ら初めて作ったカンボジア・ロイヤルライス100キロをお土産に戴き、本部の元旦祭に献米した。帰国途中バンコクの空港内で、スマトラ沖大地震で負傷した多くの外国人観光客に出会い、おさづけを取り次いだ。

2005年、元駐日大使トウロン・メアリー氏をおぢばに招聘。同氏は教義書を翻訳し、小冊子『おやさ小史』を作成、これはオリガミスクールの教材となった。この年の夏、オリガミスクールの代表6人を「夏のこどもおぢばがえり」に招待。毎日、

「朝のおつとめ」に参拝して真柱のお言葉を拝聴し、子どもたちは「おやさとパレード」はじめ各種行事に参加、大変感激した。彼らは帰国後、木村氏に「カンボジアに早く大神殿を作ってほしい」と訴え続けたという。

教祖百二十年祭が挙行された2006年4月、田中氏はオリガミスクールで開催された「蓮の会」創立10周年記念式典に参列。この訪問の際、カンボジア王国政府ファン・セン首相名で「教育貢献第1等勲章」を、天理教慈林分教会長・田中親男名で受章。6月、トウロン・メアリー氏が修養科782期に入学、8月にはおさづけの理を拝戴し、修養科を修了した。カンボジア人初のようにぼくで、初の修養科修了者となった。

2007年3月、木村トミ子氏は資金を調達し、土地を購入して、神殿普請に着手。7月、木村氏他1名がおさづけの理を拝戴した。8月、田中氏は神殿普請進捗状況視察のためカンボジアに向かった。神殿は幅7間、奥行10間、総2階建て、延べ140坪の鉄筋コンクリート造りである。

2008年5月、オリガミスクール出身の3人が修養科806期に入学。6月26日、シリウッド殿下夫妻のおぢばがえりが実現し、かぐらづとめを参拝された。田中氏はおつとめ中、喜びの涙が止まらなかった。8月、普請の進捗状況の視察のためにカンボジアに渡航。神殿上段(幅5間、奥行3間)の最高級床材を購入するのにまる2日間かかった。

宿泊先のホテルに、背に「一食」と大きく染め抜かれたTシャツを着た立正佼成会の青年部の若者たちが滞在していた。彼らは毎日1食を抜いてお金を貯め、カンボジアに学校を建てたいという。1棟に4教室、それを2棟ずつの学校をすでに5校建てた。彼らはこれから建設する予定地視察のため嬉々としていた。田中氏はこれに大きな刺激を受けた。同年12月末、「川口市私立幼稚園協会教員海外研修第2回イン・カンボジア」の団長として、小・中学校、孤児院、保育園を親善訪問した。

天理教ブノンペン布教所の開所式

2009年3月、カンボジアから10人が修養科第816期に入学のために帰参した。6月に修了して帰国の際、上段の御簾や女鳴り物など神具類を持ち帰った。そしてついに8月16日、木村トミ子所長の下、天理教ブノンペン布教所開所式が執行された。大教会長夫妻のお入り込みを戴き、一手一つに心をあわせて陽気に勇んで座りづとめ、十二下りの手踊りを勤めた。「涙涙、汗と涙で感激極まる奉告祭であった」と、田中氏は述懐する。

2010年にブノンペン布教所はカンボジア王国政府より布教公認を取得した。2011年12月、王宮前広場で50数名のようぼく・信者が神名流し、よろづよ八首の手踊りを行い、200名以上におさづけを取り次いだ。2012年、シアヌーク前国王葬儀の際、王宮前通りには連日、弔問の列が続いた。その中に病弱の人々を見つけて、道端でおさづけを取り次いだ。

ブノンペン布教所からは、ようぼく65名、修養科修了者52名、教人登録8名、教会長資格検定合格者7名、天理教語学院修了者6名、海外部ひのきしん者6名(2015年1月28日現在)。「これらようぼくが1日も早く、においがけ・おたすけに実働し、別席者・修養科生を送り出すほどに成人してほしい。教祖の道具衆として、陽気ぐらし世界建設に向かって、やる気!根気!元気!で、限りなき前進をしたい」と、田中氏は意気込みを述べて締めくくった。